

## 西浦上地区の歴史

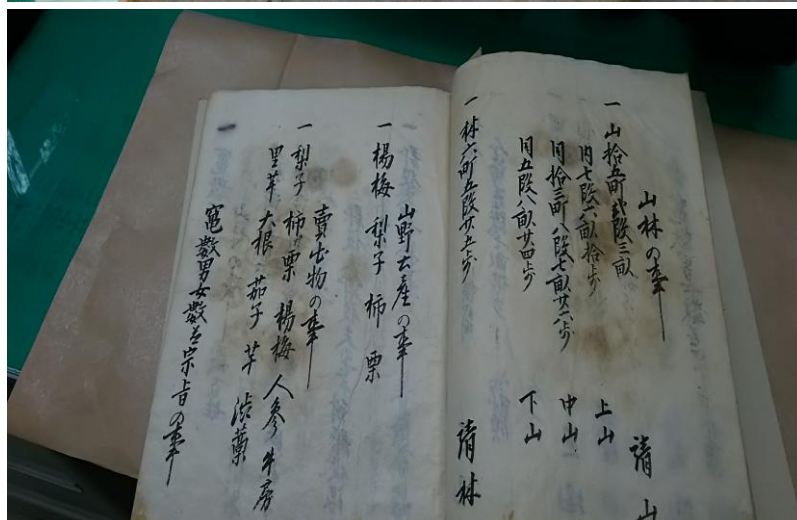
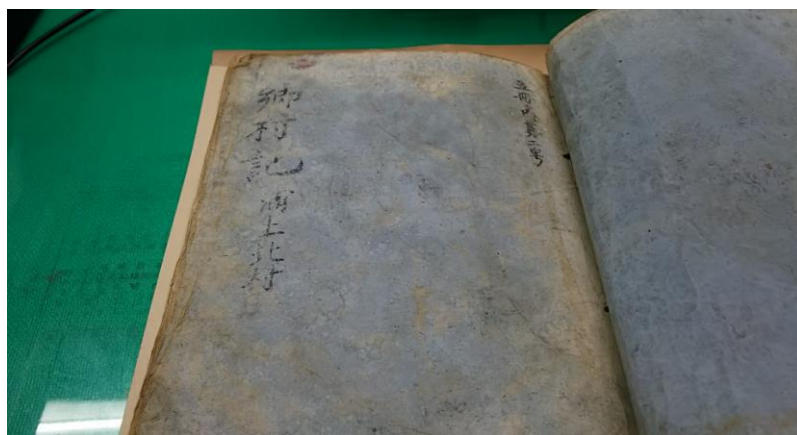
今から、140余年前、滑石村、浦上北村、浦上西村、浦上家野村など近隣村が合併し、「西浦上村」が誕生しました。当時、西彼杵郡に属した「西浦上村」は、明治22年に長崎市市制が実施された後も、村内の学校の誕生、里道の開通などで人口も増え栄えていきます。大正6年12月末での西浦上村の戸数は、680戸、人口4,414人。昭和13年に長崎市に編入された当時は、3226世帯、人口17,627人と記録されています。

原爆により壊滅的な被害を受けた西浦上地区は、目覚ましい復興を遂げますが、昭和57年7.23長崎大水害により、甚大な被害を受けます。

今日、西浦上地区は、戦禍、大災害などの様々な試練を乗り越え、長崎市北部の文化・商業・教育の中心的地域として発展を遂げています。



## 歴史へタイムスリップ



西浦上支所に所蔵されている『郷村記』。青色の表紙にうっすらと残る「浦上北村」の文字が何とか読み取れる。(発行年不詳)

江戸時代には、大村藩が、村の様子を知る資料として『郷村記』を編集した。全部で、79巻が長崎県立図書館に残っている\*<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> \*：西浦上東部地区長崎市編入記念誌「郷土のあゆみ」地区と大村藩